

新会堂建築シリーズ <144> / 胡屋バプテスト教会

光と風を生かした教会堂



上・東側から会堂全景を望む、左・バプテストリーと祈祷室



新会堂建築シリーズ <144>
沖縄バプテスト連盟 胡屋バプテスト教会
主任牧師 渡真利 彦文
名誉牧師 渡真利 文三
住所 沖縄市胡屋6丁目2ノ1
☎098・9333・5080
☎098・989・5418

沖縄県中部に位置する沖縄市。その中心部に沖縄バプテスト連盟・胡屋バプテスト教会(渡真利彦文主任牧師)の新教会堂が竣工し、8月29日に入堂式、9月4日に献堂式を行った。2千400坪の広い敷地にモダンでかつ沖縄の風土を強く感じさせる会堂は、ガラスや天窓を多く用いて自然光を取り込むことや、回廊や高い天井、開口部を随所に設けて風が通り抜けるようにするなどして、空調や照明をできるだけおさえることも配慮したエコロジーの先端を行く設計でもある。中野眞正

会堂への長いエントランスが礼拝への心の備えに

胡屋バプテスト教会のつたは、礼拝に向けて心を静めるときとしてほしいと願ったことだ。エントランスは、回廊の一部だが、階部分に分級室と会議室がある。分級室はバーティションによって3分割

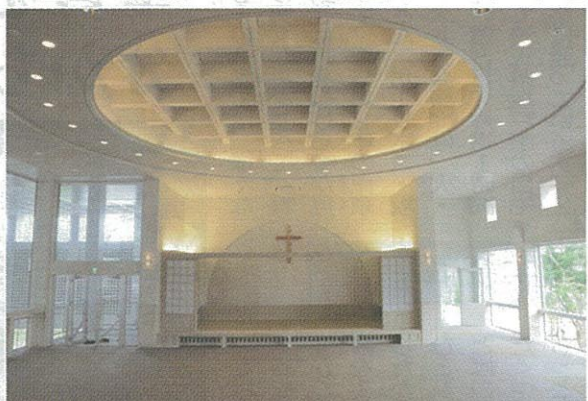
戦災で荒廃した地に福音を 宣教師の熱い思いが教会に

つた。1959年ごろエドワード・ボリンジャー宣教師が敗戦後のコザ(現・沖縄市)の町を見た時、戦災のきずあとが生々しく、人々が深く傷ついている様を見て、この町にこそ伝道すべきと示されたことが発端。61年2月にコザ伝道所として発足し、65年には教会付属の愛星幼稚園を設立し、地域の伝道・教育のための働きを始めた。68年に渡真利文三氏を牧師に招聘して教会を組織し、名称も胡屋バプテスト教会とした。一家庭で始まった集会

は、英語教会であるコザバプテスト教会に間借りしていたが、78年にコザバプテスト教会の隣接地に地上4階建ての会堂を建設し、初めて自分たちの会堂を持った。以来、教会・幼稚園を核に地域の伝道を進め、隣接するコザバプテスト教会とは交わりと協力の体制を続けてきた。

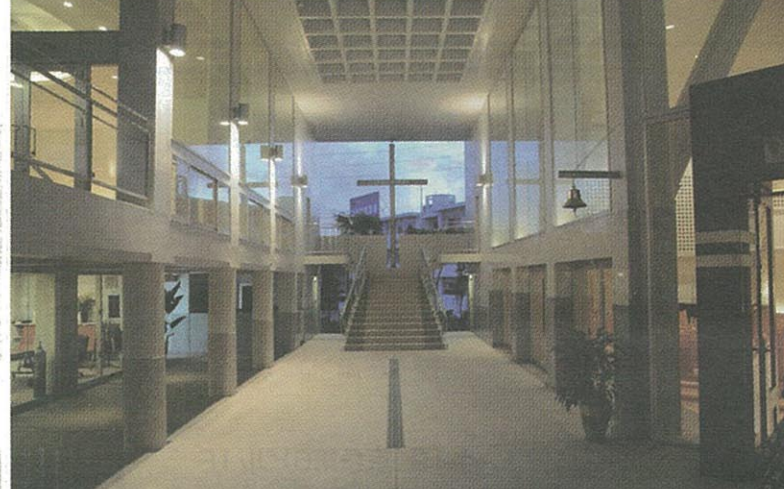
しかし、道路拡張のため移転を考えたのはなかなかならなかった。拡張工事の話は7年ほど前からあったが、実際に代替地を探し始めたのはこの数年のこと。同教会ではこれまで自分たちの教会の会堂建築より、開拓伝道を優先してきた経緯がある。会堂に人があふれるようになると20人、30人と株分けし伝道所をつくり、そこが独り立ちするまで人的・経済的応援をしてきた。こうして生まれたのが沖縄第一バプテスト教会、泡瀬バプテスト教会、屋名バプテスト教会だ。そして移転を機にセンターチャーチとなるような教会を建てようというビジョンを掲げた。

教会建築にあたっては移転費用で土地を購入し、できるだけ広い土地を確保し、建物は自分たちのささげもので建てるという基本方針を出した。胡屋教会がこれまであった場所は沖縄市仲宗根町。教会名の胡屋という町は、師が指さしている場所だった。渡真利彦文牧師はこの土地は神様の導きだと感じたという。土地の購入には移転の補償費を若干上回る1億7千万円で2千400坪の土地を手に入れた。建物は教会と幼稚園を合わせて建坪面積815・2平方メートル、延床面積千951・12平方メートルの大きな器となった。工費は幼稚園が1億5千万円、教会が3億1千万円、土地建物合わせて総事業費は約6億円となった。

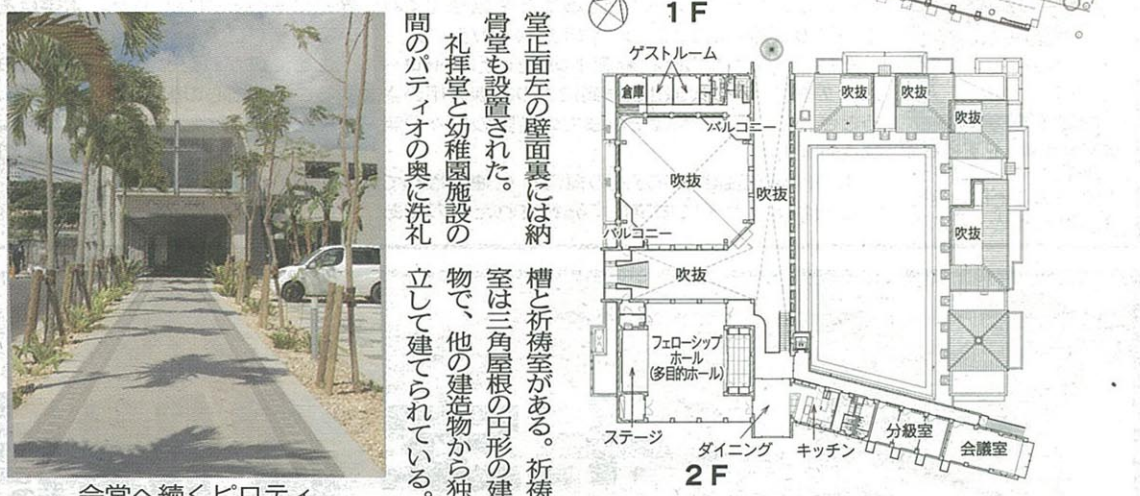
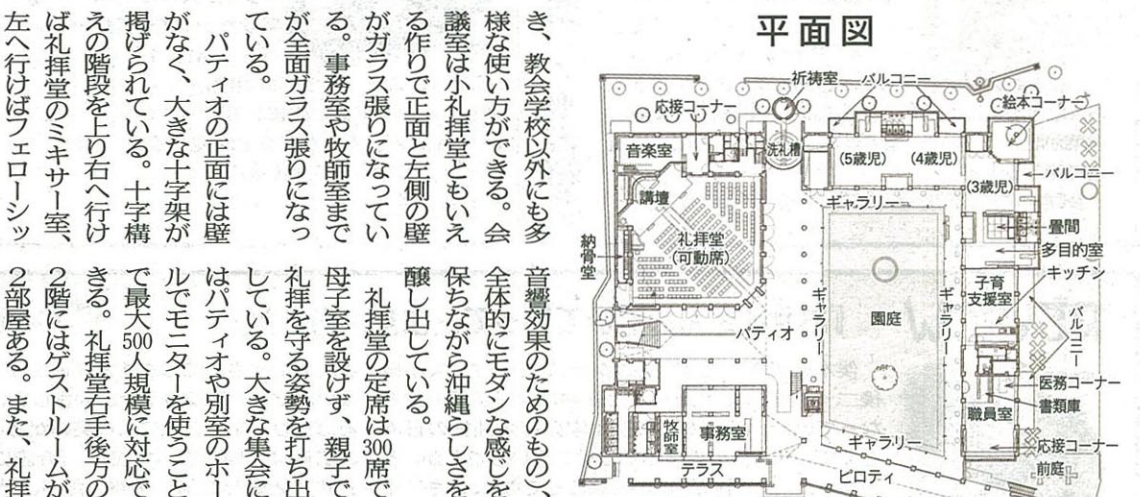
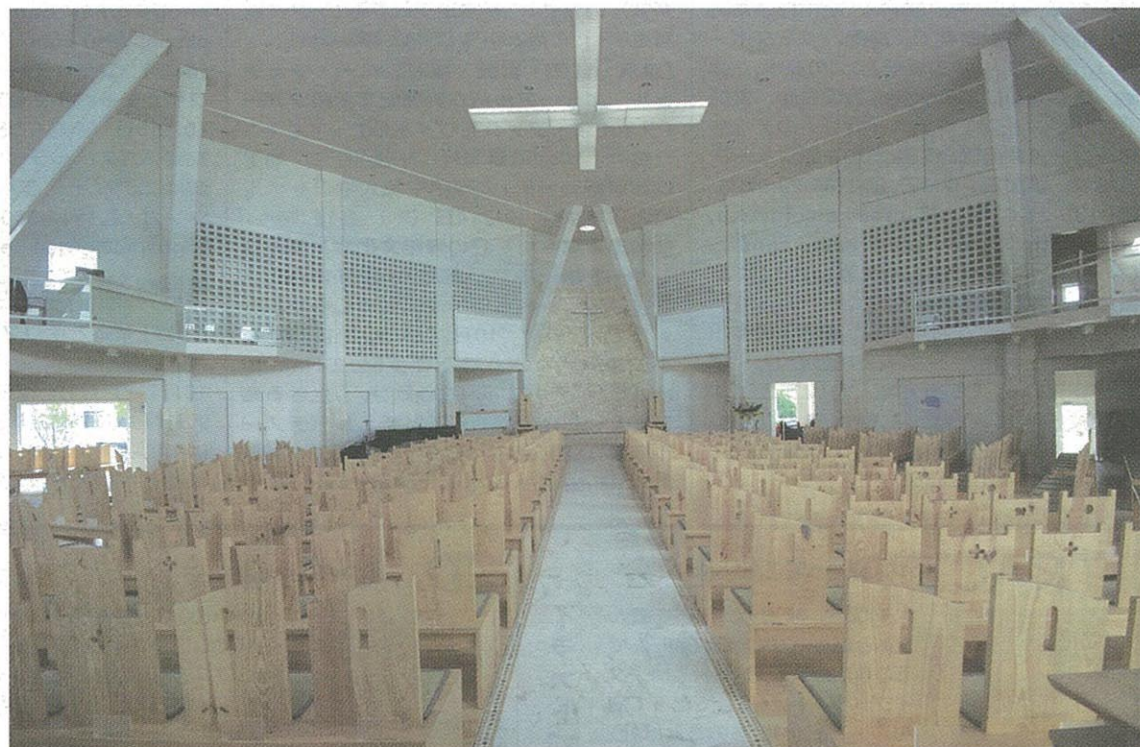


上・多目的ホール・カナ、下・幼稚園の教室

を確保し、建物は自分たちのささげもので建てるという基本方針を出した。胡屋教会がこれまであった場所は沖縄市仲宗根町。教会名の胡屋という町は、師が指さしている場所だった。渡真利彦文牧師はこの土地は神様の導きだと感じたという。土地の購入には移転の補償費を若干上回る1億7千万円で2千400坪の土地を手に入れた。建物は教会と幼稚園を合わせて建坪面積815・2平方メートル、延床面積千951・12平方メートルの大きな器となった。工費は幼稚園が1億5千万円、教会が3億1千万円、土地建物合わせて総事業費は約6億円となった。



上・新会堂で最初の礼拝の前に教会学校の子どもたちがテープカットを行った、下・夕陽迫る礼拝堂前のパティオ



これはいつでも自由に來て祈れるようにとの願いからだ。
今回の建築の中でも特に目を引くのが洗礼槽。あえて礼拝堂の外に出し、上部の屋根もこの部分は丸く覆っている。野外でのバプテスマをイメージし、式では会衆が囲む形で行う。
幼稚園の教室は天井を高く吹き抜ける、明かり取りを設けてあるの、晴れた日には照明をつけなくても十分な明るさを確保できる。教室内の照明はすべて間接照明にしており、自然の光、柔らかな光を大事にしている。また各教室はクラスごとの仕切りがないため風の通りもよ、夏でもあまり冷房を使わずにすむという。
幼稚園のイス、机棚などは沖縄の木である琉球松を使った胡屋教会のオリジナルである。